

「河北町道の駅河北」検討委員会報告および今後の基本的方向性

第1章 河北町道の駅河北について

1 道の駅の定義

道の駅は、日本の各自治体と道路管理者が連携して設置し、国土交通省により登録された、商業施設・休憩施設・地域振興施設等が一体となった道路施設である。道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の人々のための「情報発信機能」、道の駅を核として地域が連携する「地域連携機能」という3つの機能を併せ持つ。

2 既存施設の状況

(1) 施設の概要と経過

現在、町が設置している河北町道の駅河北の地域振興施設は平成5年に建設された施設で、住民福祉の増進及び本町観光施設観光事業の発展並びに地域の活性化に寄与することを目的として、平成6年4月1日より運営している。

これまで、1階では主に観光案内や物産品の販売、2階では最上川に生息する魚の展示やスリッパ卓球の体験、3階はレストラン、4階PH階は月山、蔵王を望めるパノラマ展望台として活用されてきた。

しかしながら、これまで、管理業務委託や指定管理として管理運営されてきたが、平成30年4月1日以降、指定管理者の事情により平成31年4月24日まで閉館することとなった。

平成31年4月25日からは、1階は観光案内や物産品の展示・販売、2階は展示スペースとし、管理運営、駐車場周辺の清掃等を一般社団法人河北町観光協会へ委託している。さらに3階は商工観光課の事務所として使用している。

施設面積	1階	172.47㎡
	2階	174.30㎡
	3階	292.51㎡
	4階（PH階含む）	68.39㎡
	合計	707.67㎡

開館期間 年中無休

開館時間 午前8時30分から午後6時まで

利用料金 電気自動車急速充電器 1回500円

(2) 利用状況

H25 50,300 人

H26 47,980 人

H27 42,100 人

H28 65,602 人

H29 70,507 人

H30 閉館

R 1 19,066 人（平成 31 年 4 月 25 日～令和元年 10 月 31 日）

(3) 検討委員会の設置

①検討委員会の設置目的

道の駅河北をオープンしてからの管理・運営方法を踏まえながら、施設の課題や今後の方向性、運営方法などの意見、提案をいただくため検討委員会を設置した。

②検討委員（12名）

③検討委員会の開催

令和元年	6月12日	道の駅河北検討委員会設置要綱設置
令和元年	8月5日	道の駅河北検討委員委嘱
令和元年	8月5日	第1回検討委員会開催
令和元年	8月19日	第2回検討委員会開催
令和元年	9月26日	第3回検討委員会開催

第2章 検討委員会で出された主な意見、提案の概要

1 第1回検討委員会

日時 令和元年8月5日 13:30～

場所 道の駅河北及び河北町産業振興センター2階研修室

※委員会に先立ち現場視察を実施し、現況を確認したうえで、今後に向けて意見をいただいた。

(1) 主な意見

①高齢者や障がい者のために、入り口の自動ドア化が必要ではないか。

②施設内には3階にしかトイレがなく、1階にも必要ではないか。

③限られたスペースの中で利益を出すための施設にするには、単価の高いものを提

供する必要があるのではないか。

- ④ 2階の水槽が素敵だ。3階は景観がいいので、観光スポットとして利用してはどうか。
- ⑤現在の道の駅の建物部分だけでは手狭であるので、外のスペースを利用してテントを設営し、ターゲットを絞った様々なイベントを行ってはどうか。
- ⑥既存の建物では産直併設型の道の駅として利用をする事は面積の問題などできないので、他にはない差別化が図れるような目玉が必要なのではないか。
- ⑦3階をキッズスペースとして一般開放してはどうか。
- ⑧道の駅にも飲食店や名所、催し物の案内があった方が良いのではないか。

2 第2回検討委員会

日 時 令和元年8月19日 15:00～

場 所 河北町産業振興センター2階研修室

※第1回検討委員会で出された意見を踏まえて、道の駅の利活用について具体的な意見をいただいた。

(1) 主な意見

- ①ターゲットという点を考え、持続可能な場所とするには、以下のことが考えられる。
 - ・ある程度の収益が見込め、安定した収入があり、日頃から町民に利用される施設であること。
 - ・今流行っているものを安易に取り入れるのではなく、長期的な目で河北町民に愛される施設を目指すべきであること。
 - ・町内の飲食店、物産店と競合しない施設であること。
 - ・近隣の道の駅や町内外と連携が取れ、広域的な利用が図られる施設であること。
 - ・道の駅で何かアクションを起こしたことにより、町民の雇用が生まれること。これら5つの点が重要になる。
- ②建物内のトイレの新設、裏口の整備など、利用者に配慮した設備を整えること。
- ③他の道の駅との差別化を図るうえでも、全体をイタリア館とし、イタリア野菜を使ったレストランとそれに合わせたワイナリーとして整備してはどうか。
- ④お菓子屋さんを巻き込み、スイーツに特化した道の駅にしてはどうか。話題性のあるソフトクリームを販売するなど。
- ⑤ほかの道の駅を見てみると、夜中ほぼ満車になっている道の駅もある。車中泊している人が多いので、そういった方に対してのサービスを提供してはどうか。例えば、シャワー、軽食、アルコールの販売、有料コンセント等。
- ⑥道の駅米沢の町ナビカードが大変好評である。真似するのも一つの考えである。
- ⑦周辺環境の整備として、隣の河川敷等を使って、ジェットスキー、ホバークラフト、

ジップラインなどできるようにし、複合型レジャー施設にしてはどうか。

全体的には、イタリア野菜を使ったレストランとワイナリーを組み合わせたイタリア館として運営していくという意見が多数を占めた。

(2) イタリア館（イタリア野菜を使ったレストラン＋ワイナリー）にした場合の利点と課題

- ①町民が起業・ブランディングをすることで、そこに生産者が絡み雇用が生まれる。
- ②町民に愛され、町外に発信されるというストーリーをつくることができる。
- ③誰がどのように運営するのか検討する必要がある。
- ④ブドウ農家が減少していく中で、ワインを醸造するのは本当に可能なのか考える必要がある。
- ⑤ブドウの栽培からワインの醸造まで少なくとも5年はかかるので、道の駅が完成形態になるまでの運営をどうするかを検討する必要がある。

3 第3回検討委員会

日 時 令和元年9月26日 13:30～

場 所 河北町産業振興センター2階研修室

オブザーバー

東北地方整備局山形河川国道事務所交通対策課

山形県県土整備部道路整備課

※第2回検討委員会で集約されたイタリア館（イタリア野菜を使ったレストラン＋ワイナリー）について、運営方法等の議論がなされた。

(1) 主な意見（建物）

- ①1階は、貯蔵タンクを設置しワイナリーとして活用する。このワイナリーは、ワインを量産して市場に出していくのではなく、一つの観光資源とすることが目的である。2階は、日本酒やワインを一カ所で楽しめるフロアとする。3階は、河北でしか味わえないワインも提供するレストランにする。
- ②地元酒造会社では、生産した日本酒を西村山地域を中心に消費されていると伺った。これはほかの地域のお酒で代替え出来ない魅力を持っているということです。河北町に来なければ味わえない、買えない、体験できないという地域限定さが人を引き付けるので、そんな施設にするべきである。
- ③3階レストランでは、河北町の農産物としては、イタリア野菜のほか、春の「溝延のいちご」、夏の「さくらんぼ」や「もも」、秋の「ラ・フランス」など、四季の美

味しい果物があるので、これらを用いた冷製パスタを検討してもらいたい。

- ④期間限定メニューとして「ご当地グルメフェア」を開催すれば、収益も見込める。
- ⑤展望階については、防犯・避難の面で開放することが難しいのであれば、わざわざ展望階までお客様を登らせる必要はないのではないかと。イベントの時限定で利用しても良い。3階の展望だけでも相当な迫力がある。

(2) 主な意見（運営・その他）

- ①イタリア館（イタリア野菜を使ったレストラン＋ワイナリー）構想を実現するには時間を要する。3年後5年後を見据えてロードマップを作ることが必要だ。
- ②イタリア館にふさわしく、町民に愛される新たな名称を付ける必要があるのではないかと。
- ③空港から道の駅までのバスを出せば、それだけでツーリズムが確立される。また、そこからひなの湯までバスを出せば、さらにツーリズムに繋がる。
- ④イタリア館構想で、農産物販売は「ひな産直」、加工品（加工メニュー）は「道の駅」のようにすみわけして、連携しながら地域農産物のアピールをする。

4 総括

(1) 施設の利活用について

- ①他の道の駅との差別化、地域性を踏まえ、施設全体をイタリア館とし、1階は観光案内・小規模ワイナリー醸造所、2階は日本酒・ワインの有料試飲・販売所、3階は、かほくイタリア野菜や町内の農畜産物を使った料理と河北でしか味わえないワインの提供をするレストランということで意見が集約された。
- ②道の駅（地域振興施設）周辺環境についても、交通網の検討、河川敷を利用したレジャー施設の整備、夜間の駐車場利用者へのサービスなど、様々な意見をいただいた。

(2) 今後の計画について

- ①レストランやワイナリーについては、最終的な形態になるまでは数年を要することから、それを見据えた計画を立てる。
- ②完成に至るまでの準備過程を来館者から見てもらう事で、町民や町内外のお客様に愛され親しんでいただける道の駅づくりをする。

第3章 今後の進め方について

(1) 施設運営について

道の駅検討委員会でいただいた意見を十分尊重しながら、検討する。具体的には、ワイナリーに関して、醸造家や他での取り組みなどの意見を伺いながら、どのよう

なやり方で、どの程度の期間でできるのか、レストランに関しては、誰がするのか、日本酒・ワインの提供に関しては、県内の商品が一堂に集められるのかなどの課題を具体的に整理し、将来を見据えた計画の検討を深めていく。

(2) 運営主体について

町、商工会、べに花の里振興公社、河北町観光協会など、関係機関と協議を重ね、年度内をめどに運営主体について、検討していく。

以上のように検討委員会での検討結果がまとまりました。

検討委員会の検討結果を踏まえ、町としての今後の方向性を示します。